

シーズン前に操作を確認

市が中山間地域の交流センターなどに配備している小型除雪機の操作講習会が12月24日、山佐交流センターで開催されました。企画したのは上山佐地区自主防災会ほか。操作方法や除雪を必要とする世帯の確認などをこの時期に毎年、行っています。

同地区では除雪ボランティア隊を結成し、積雪時には高齢者世帯などの生活道路確保のため無償で除雪を行っています。昨年は延べ8回出動しました。

初めて講習会に参加した仙田達さんは「ひと通り動かしてみても操作方法が良くわかりました。(今は雪が無いが)積雪時には違った苦労をするかもしれないので安全に除雪したい」と話していました。



▲講習会には18人が参加。その後は除雪地の現地確認を行いました。

369人が成人 大人への自覚を新たに

正月の3日、安来市総合文化ホール・アルテピアで平成30年安来市成人式が開催され、華やかな振り袖やスーツ姿の新成人が大人への自覚を誓い、新しい門出を祝いました。

今年、対象となった新成人369人(男176人、女193人)のうち、324人が出席。第1部では式典が行われ、新成人で成人式実行委員長を務めた畑和輝さんが「後輩たちの道しるべとなるように成人としてふさわしい行動を心掛けたい」と決意を述べました。第2部は新成人たちが企画運営したスライドショー。小中学校時代の懐かしの写真や恩師からのメッセージに大きな歓声が上がっていました。また、ステージ演奏や20歳のメッセージなどの催しも行われました。

終了後は、友人と記念写真や近況を話す姿が見られ、大人への仲間入りを互いに祝い合いました。



まちの話題や出来事を紹介します



12月3日の余芸大会で、ひろせ保育園が披露した組体操。「ハッ」「ハッ」と元気な声を上げながらポーズを決め、観客からは惜しみない拍手が送られました。

今月の一枚



- ▶式典の様子。今年からアルテピアで行われました。
- ▼友人と記念写真をパシャリ





◀本番のオープニングの様子。

アルテピアから世界に歌を届ける

総合文化ホール・アルテピアの開館記念事業として12月10日、NHKのご自慢を開催しました。

人気の番組とあって出場者や観覧希望者が殺到。出場申込には526通の応募があり、前日の予選会には書類審査で選ばれた250組が参加しました。一方、当日の観覧希望者も6218通あり、当選倍率は15倍になりました。

中継のあった本番ステージでは、予選を勝ち抜いた20組が思い思いの衣装やパフォーマンスなどで自慢ののどを披露しました。

安来産の木材に描いた「森の夢」

NPO法人青少年サポートの会が主催する森が見た夢コンテストの表彰式が12月17日、安来節演芸館で行われました。

同コンテストは、縦6センチ×横18センチ程の安来産間伐材の板をキャンバスに見立て、森が見た夢をテーマに自由な発想でアートを描くものです。模様や写実的なものまで夢のある314作品が寄せられました。

電車を描き幼児の部グランプリになった荒松星くんは「森に大好きな電車が走っていたら楽しいと思った」と話していました。



▲作品は安来節演芸館で展示されました。
▶受賞した荒松星くん。

歳末市に“やまんば”現わる

江戸時代から続く母里市やまんば祭りが、母里交流センター周辺で行われ、地元の農産物や正月用品などを買い求める人でにぎわいました。

この祭りは、江戸時代に母里藩の役人が、やまんばに扮した老婦人にお金を配らせ、町がにぎわったことに由来。今年も人通りが多くなると、面とカツラをつけたやまんばが町を練り歩き、道行く人に福引券やお菓子などを渡し、祭りを盛り上げました。

大阪から祖父の家に遊びに来ていた川崎紫苑くん(10歳)は「やまんばは怖いものだと思っていたけど、お菓子をくれて驚いた」と話していました。



◀やまんばから福引券を受け取る来場者。



▶かん流しの技法を使った白池の埋め立ての場面。

郷土の偉人を劇で伝える

「^{ぼくら}ト蔵新田」を開発したト蔵孫三郎を題材にした演劇の発表が12月2日、総合文化ホールで行われました。ト蔵新田が日本遺産の構成文化財に認定されたのを機に、荒島青年協議会と荒島小PTAが中心となって劇団を結成。17年前に同様に披露された脚本等を参考に約半年かけて練習してきました。

本番では、地元の言葉を使ったり、アドリブを入れて会場を沸かせたりするなど、出演者たちが熱演。立ち見客がでるほどの満員となった会場からは終演後、大きな拍手と歓声がしばらく続きました。観覧した女性は「身近な題材の劇でとても楽しむことができました」と話していました。